

美術年契 完

津田文庫
文庫 1
1716





美術年契

勉稼居士題





日本美術年契

つた文庫

本邦美術ノ名ノ海外ニ馳セ聲譽ヲ萬國ニ博スル蓋偶
 然ニアラス夫我國ノ地勢タル太平洋ノ波上ニ起伏シ
 テ山嶽岡巒或ハ逶迤シ或ハ嵌巖シ溪流江河或ハ縈紆
 シ或ハ奔騰シ連巒屏ノ如ク一碧湖光ヲ蘸シ急流漣ヲ
 捲キテ百川海ニ朝ス翠嶼ノ穩波ニ出沒シ青松ノ白沙
 一起臥セル到ル處トシテ風光ノ明媚ナラザルハナノ
 自々吟人歌客ヲシテ詠懷ノ情ヲ起サシム而シテ氣候
 亦暢和ニシテ時ニ輕風微雨ヲ送り土地豊美ニシテ草
 木繁殖シ春花秋葉四時ノ觀アリ實ニ人ヲンテ其心匠

ヲ藻繪ナラシムルニ足ル邦人ノ獨リ美術ノ別天地ニ
逍遙シ遂ニ擅長ノ特技タルニ至ル亦宜ナルカヲ然リ
唯美術ノ發達豈翅山河風月ノ景致ニ由ルノミナラ
ヤ顧フニ隣修好ハ以テ相互ノ文化ヲ融致スミシ
初ノ本邦ノ交ヲ朝鮮支那ニ通ズルヤ彼國雍熙ノ時代
ニ當リテ其禮文ヲ採リ又佛教ノ傳來ト共ニ遠クハ印
度及古代希臘ノ開化ヲ輸入シ後世又交ヲ南洋ノ諸島
西洋ノ各國ニ開キテ其文明ヲ移シ凡在界ノ文物宇内
ノ巧技ハ盡ク其英華精粹ヲ抜キテ之レヲ網羅セザル
ハク我ガ豊富ノ素質ニ加フルニ各國多般ノ文采ヲ

今世上ノ明徴ヲ繹子期ヲ別テ聊其發達推遷ノ原委
ヲ略叙スレバ初期ハ神武天皇ノ基業ト共ニ文物漸開
ケ神功皇后ノ征韓以來物品ノ舶齋工匠ノ渡來益多ク
始メテ茲ニ美術發生ノ基ヲ起セリ尋キテ佛教ト共ニ
支那唐代ノ雄麗ト西方亞細亞ノ華褥ナル裝飾ヲ傳ヘ
堂塔伽藍ト并麗ヨリ服飾器用ノ微ニ至ルマデ宏麗精
極メ遂ニ天平ノ一時代ヲナセリ而シテ當代ノ美
術ハ雕刻ニ於テ最其發達ヲ見ルガ如シ即其殘影ノ今
猶焯々タルモノヲ寧樂ノ古都ニ留メタルモノ是ナリ

而シテ弘仁ヨリ貞觀延喜ニ至リテ美術ノ方針漸變ジ
其發達ハ專ラ詞藻ノ一方ニ其進路ヲ求ムルニ至レリ
其繪畫ニ於テハ金岡ノ如キ大家アリテ漸次内外ノ
趣致ヲ混シテ固有ノ穩雅優美ナル風ヲ創シ遂ニ寛
治康和ノ頃ニ至リテ土佐ノ一派ヲ舉ゲ純然タル日本
美術ノ真相ヲ呈ハスニ至レリ而シテ建築園冶及蔭画
織物ノ如キハ藤氏數代ノ華奢ニ伴ヒ益精巧ヲ加ヘ延
キテ平氏ノ時代ニ及ベリ然シテ賴朝ノ霸府ヲ鎌倉ニ
開クヤ事物自ラ真率ナル武人ノ氣風ヲ帶ビ且僧徒ノ
宗徒來スルモノ彼ノ清淡質素ナル當代ノ風尚ヲ傳

示ル彼ノ勇健ナル運慶ノ彫刻並ニ清楚ナル建仁寺ノ
建築ノ如キハ正シク鎌倉ノ時代ヲ代表セルモノト謂
フベシ南北朝ノ世ニ及ビテハ國內爭亂ニ由リテ百工
殆ド其業ヲ廢スト雖亦海外ニ渡航スルモノ多ク隨ヒ
テ彼國ノ繪画器物ヲ齎ラシ漸支那宋元風ノ餘波ヲ受
ケ禪教ノ傳繙ト共ニ無味閑寂ヲ尚ブノ氣風ヲ生ジ遂
ニ足利ノ頃ニ至リテ造リ出スニ至ル即東山ノ風趣ハ蕭疎
其骨髄ヲ得タルモノナリ而シテ將軍義政茶事ニ風流
ノ生涯ヲ寄セ臣下亦隨ヒテ之レニ倣ヒ諸工其涵養ヲ

受ケ皆其趣致ヲ改ム豊臣氏ノ時代ハ南北朝ノ末年ニ
匹シク戦亂ニ由リテ文物弛廢スト雖征韓ノ役ヨリ朝
鮮及那及南洋諸島トノ交通開ケ新物品ノ渡来日ニ多
ク陶磁七機織ノ如キハ皆此時ニ當リテ其基ヲ開ケ
リ而シテ徳川氏ノ天下ヲ一統シ元和偃武ノ後ニ至リ
テハ既ニ十分ノ材料ヲ蓄ヘ百工各保護ヲ得テ其職ニ安
ジ士民ノ逸樂奢移ニ依リテ其業爲メニ繁ク画事ヲ初
メトシテ彫刻建築園藝陶磁髹漆機織各其精ヲ競ヒ巧
ヲ闘ハシ寛永ヨリ寛文元禄ニ至リテ其盛ヲ極ム然ル
ニ爾後互近ノ地位凝滯シテ復著大ナル進歩ヲ見ズ唯

画ニ於テハ明清ノ画風ヲ傳ヘ祇南海ヲ初メトシ池無
名ノ如キ又宋紫石熊代繡江ノ如キ各流ヲ傳フ而シテ
其新刺撃ヲ受ケテ圓山應舉起リ寫生ヲ力メ別ク一種
明麗輕妙ナル画風ヲ開キ殆ド當時ノ画風ヲ一變セリ
後南北折衷ヲ以テ一流ヲ舉ゲシ谷文晁アリ狩野土佐
ノ諸風ヲ融化シテ一機軸ヲ出シ、菊池容齋アリ以テ
今日ニ至リ
今微細ニ美術ノ沿革ヲ論ゼムト欲スルニハ猶幾多ノ
青苔ヲ排キテ地下ノ遺寶ヲ索メ都鄙ノ名利舊族ニ就
キテ其靈塔秘庫ヲ探リ遺ヲ拾ヒ漏ヲ索メ偏ク古今ヲ

精鑑セザルベカラズ而シテ風趣ノ異ナル所ヲ質シ韻
致ノ由テ生ズル所ヲ繹ヌルニハ人文々學宗教ノ感化
時好習俗ノ浸染如何ヲ審ニセザルベカラズ其他海外
ノ名品ト比較對照シ美ヲ論ズルノ標準ヲ立テザルベ
カラズ是固ヨリ一朝一夕ノ業ニアラズ此書ニ於テハ
唯繪画彫刻美術工藝ノ沿革ニ就キ其事實ヲ臚列シ名
匠統傳ノ事蹟ヲ舉ゲ時代ノ順序ニ隨ヒテ編成シ先後
ノ次第ヲ知ラシムルニ過ギズ固ヨリ力メテ其原委ヲ
明晰シ併セテ批評ヲモ加ヘムト欲セリト雖奈何ニセ
ム古來其盛衰沿革ヲ記セル書ニ乏ク統傳繼業ノ明カ

ナラザルモ少ナカラズ今此略年表ヲ作ル猶且其材料
ノ乏キニ苦メリ他日將ニ洽查周覈漸次補足シテ遂ニ
一美術史ヲ編成スルノ時アルベシ。

書中年代ヲ序スルモノ自ラ美術ノ發達ニ從ヒ古今其
紀事ニ粗密ノ差ナキコト能ハズ故ニ神武天皇即位元
年ヨリ雄略天皇ノ元年ニ至ルノ間ハ十年ヲ以テ一行
トシ又雄略天皇元年ヨリ後龜山天皇ノ應永元年ニ至
ルマデハ二年ヲ以テ一行トシ又應永元年ヨリ明治近
代ニ至ルマデハ一年ヲ以テ一行トナス。

名工ノ略傳ヲ載スルモノ繁ヲ厭ヒテ人毎ニ生歿ノ年

月ヲ記サズ皆其業ノ最盛ナル時代ヲ擬シ其年代ニ編入セリ但其詳傳ノ如キハ此書再版ノ時ヲ以テ之レヲ卷尾ニ補ハムト欲ス。

其他適マ工匠ノ名ヲ傳フルモ其年代ヲ詳ニセズ又或時代ニ於テ其名ヲ知ルモノアルモ未其詳傳ヲ得ザルモノ、如キハ姑ク之レヲ省ケリ乞フ博雅ノ君子之レヲ餘欄ニ補ハムコトヲ。

明治二十三年十一月 福地復一識ス

帝世

年	世紀	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
		繪畫	佛工 金工 木工 彫工		漆工	陶工 七寶工 磁工 埴工	機織 刺繡 漆工

神武天皇
即位元年
以下神代
本卷元年
以下行々

神武
安寧
懿德
孝昭

我國上古ノ画ハ唯簡單ナル物、 形象ヲ画クニ過キリレモイテ 神代ニ須佐能乎命諸國ヲ巡リ テ出雲國鹿野郡ニ至リ給ヒ時 此處ハ美好ニシテ國形画輪ニ似 タリトテ乃其地ニ宮殿ヲ造ラシ コトアリ以テ當時國画ヲナスノ思 起アリシトテ知ルベシ				天皇地ノ大和ノ權 原ニトシ宮殿造 營々ニ其地中 ノ盤石ヲ礎トシテ柱 ヲ立テ棟桁ヲトテ屋 上ニハ知岐ハ都乎岐 ヲ置ク是ヨリ天照 大神世乎置觀覽 彦依知ニ神山材 ノ伐リテ瑞殿ヲ造 シコトアリ天皇亦 其子孫ノレテニ事 ヲ取フニ後此神 ノ孫世々木匠以テ 業トス		上古ノ風俗ヲ以テ テ頭手足ヲ裝 飾ス故ニ玉玉頭發 達キリ神代ニ於テ 櫛明玉命天照大 神ニ奉仕シ玉ヲ造 ルヲ以テ業トナス其 子孫居ヲ出雲ニ 移ス是ヲ出雲玉 作トイフ 陶器ハ須惠母乃 稱レ神代ヨリテ 數ス神武天皇時 和泉大鳥部ノ地ニ テ入アリ能ク陶器 ヲ造ル因テ其地ヲ 稱シテ陶邑トイフ	
--	--	--	--	--	--	---	--

成務

仲哀
和親

應神

仁徳

年世
号代

繪
畫

彫
刻

建築

漆
工

陶
工

織
工

世三武内宿禰ヲ以テ甲冑樂
煉ノ業ヲ興テ始祖トシテ明
珍宗徳トイフ是後世々傳説
ナリト雖當時既ニ甲冑工ノ
進歩セリ古墳ヨリ發掘セシ
多クノ武器ニヨリテ推想スル
コトヲ得マシ

機織ノ業既ニ古
ヨリ開テ絹羅布倭文
布等ノ製アリ魏志
ニ神功攝位時我
國ヨリ班布倭錦絲
青緋絹衣帛布異
文雜錦等ヲ贈テ
コトヲ載セリ
融通王百二十七年
ノ秦氏ノ率モテ歸
化レ織業ヲ營ム
百濟ヨリ織造
ノ獻
天皇融通王百
來リシ秦氏ノ諸國
ニ分直レ歸テ秦ヒ
テ絹帛ヲ織ラシ

履仲
反正
允恭

安康
雄畧

清寧
顯宗

雄畧
安康
履仲
反正
允恭

男龍歸化ノ人画ヲ善クス

造工因斯稱我召サレテ百濟ヨ
リ來ル

鞍部賢貴召サレテ百濟ヨ
リ來ル

天皇顯宗御田命
ニテ内裏ニ樓閣ヲ
造ラシム

樓ヲ大和國山邊郡
穴穗宮邊ニ建ツ

ハ後其絹ノ美ヲ
賞シ其工人等没
多ク姓ヲ賜フ
天皇融通御初ヲ
總領セシノ姓服部
連ヲ賜ヒ以テ織業
ヲ勸ム

陶工高貴召サテ織工定安郡ヨリ
百濟ヨリ來リ河内百濟ヨリ來リ河内
桃原ノ地ニ於テ陶器國桃原ノ地ニ錦ヲ
ヲ造テ百濟陶法是織ル本邦ニ錦様
ヨリ本邦ニ傳播スルノ錦ヲ織ラコト此ニ
城陶工伏見ニ於テ始ル是ヲ報錦ト
清寧ヲ造リ朝廷
ニ獻ス

仁賢

武烈

繼體

宣安
化開

欽明

敏達

崇峻
用明

年世
号紀

繪
畫

彫
刻

建築

漆工

陶工

織工

男體 画能ヲ嘉シ姓首ヲ賜フ

南梁人鞍作村吉馬達等
宋朝ニ草堂ヲ大和國高市
郡坂田原ニ結ヒ本尊ヲ安置
シ歸依礼拜ス其子孫皆佛堂
トナルニ由リ司馬達ヲ以テ佛
師ノ祖トナス

高麗華工須流
挾奴流挾歸化ス

百濟王金銅ノ釋迦佛及
幡蓋ヲ獻ス

百濟王佛エテ獻ス

佛画ニ白加百濟ヨリ來ル

百濟王龜蓋ニ將徳白味淳
等ヲ獻ス

百濟王造佛寺工

百濟王龜蓋領
獻ス後之ニ後ト
覽ヲ織ル

文武	元明	元正	聖武	天平
世紀	大寶	養老	神龜	天平
繪畫	画工ヲ判任官ニ准ス	画師押勝ノ姓ヲ改テ倭画師トナ		養徳画師植戸辨唐
彫刻		紀實又勲職音文會父子佛工ノ名手ニシテ世俗比父子ノ天照大神及春日大明神ナリト稱ス長谷寺法隆寺等ノ十二面觀音此勲會父子ノ作ナリト云フ		國中連公麻呂ヲシテ盧遮那佛ノ大像ヲ造ラシム
建築	別ニ修理職ヲ設ルノ制ヲ立ツ	都城ヲ奈良ニ遷營		都ヲ山城ノ宇多ニ遷シ唐制ニ倣ヒ宮城ヲ營規模宏壯
漆工	別ニ修理職ヲ設ルノ制ヲ立ツ	漆工ニ進歩シ或ハ螺鈿ヲ嵌メ撒金ヲ施シ或ハ五彩漆又ハ密陀僧ヲ以テ描		僧道慈覺渡リ造即時画ノ起原ナリ
陶工		挑文師ヲ諸國遠ニ化音ヲ繼グトナ		天正十一年ノ銘アル唐櫃ノ裏ニ沙陀空
織工	東國モ能ク織ギト漸ク盛ナリ			學平宗清ノ作名

孝謙	淳仁	稱徳	光仁	桓武
天智	天智	天智	天智	天應延暦
	河内画師祖父麻呂	男龍後ニ大岡忌寸ノ姓ヲ賜フ		
		紀州名草郡能應寺ノ僧ス其柱椽ヲ飾ルニ觀喜大六ノ天迎及十面觀音ヲ作ル其子多利九亦丹聖ヲ施ストコトニ始ル		新都ノ宮殿寺院等多ク裝飾ニ唐風ノ彫刻ヲ施ス
		春日神社ヲ造營		亦各美觀ノ航ヲ遂
		大皇太后寺ニ當リ		器ヲ用ク工入因テ
		當時密陀僧ノ感ヲリニ班ヲ見ルニ足ル		當時支那ノ商賈織文ノ工益進ム
				織部司ヲ置キテ錦ヲ織ラシム

年号	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
延長	巨勢公忠金剛男繪所長 者トナル 僧會理佛画ニ巧ナリ	三井寺ノ僧日光並ニ弥勒夜叉等能面ノ彫刻ニ名アリ(此時代恐ク是ヨリ百三十年ノ後ナル)	小倉宮龜山ニ山莊ヲ開ク藤原ノ業ヲ營ム	諸國漆器ヲ製スル諸國漆器ヲ製スル諸國漆器ヲ製スル	製スル地大和河内所ノ錦ヲ以テ内攝津和泉近江調頁トナル其美濃播磨備前錦ハ皆西面錦ナリ	
承平						
天曆	巨勢公望金剛男味下末末ノ男繪所長者トナル 飛鳥部常則能画ヲ以テ禄重ク名高ク當時ノ妙手ト称セラル	尊像ヲ造ル 僧感世佛像ヲ作ルヲ以テ業トス		東西ノ争乱由リ諸國ノ漆業ヲ廢ス京師ハ持舊ノ如ク盛ナリ	東西ノ乱ニ由リ兵乱ニ由リテ諸國ノ織工其業ヲ廢ス	
天慶						

朱雀

村上

年号	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
天德		増田宗李蘇迷盧山甲ヲ造ル又源滿仲ノ命ニテ薄金無植鎧ニ領ヲ造ル		飾ルニ多ク時画ヲ以テス		
應和				當時摺紳者侈ニ耽リ爲ニ京師ノ漆工其業盛ニシテ製出スル所々皆精美ヲ極メ金銀ノ鍍メ螺鈿ヲ嵌レ其巧遠ク音平ノ末ニ至ルヲ其業衰ヘス		
康保						
安和						
冷泉						
圓融	巨勢深江公望ノ男					
貞元	惠心僧都能ク佛像ヲ圖ス遺蹟ト称スルモノ世ニ多シ就中真如堂山越ノ弥陀ヲ以テ					
天元	永觀最トス 寛和寛超僧都		花山院寢殿渡殿等ヲ造リ始テ屋根ヲ葺キ合カサヲ創意セラレ宮殿ノスニ螺鈿ヲ用ウ建築為ニ變ス			
正暦	永延 永祚					
長徳						
長保	巨勢廣貴深江ノ男ニテ筆力勁健ナリ繪所長者トナル					
寛弘	小野僧正仁海	僧康尚佛工ノ妙手ニシテ勅命ニ由リテ多ク佛像ヲ				

花山

寛弘

馬羽	堀河	白河	後三條	康平
天仁	嘉保	承保	延久	治曆
藤原隆能繪所預藏	鳥羽僧正覺猷畫善クマ	宅摩為成繪所長者トナリ	素致眞法隆寺ノ太子繪傳	覺助定朝ノ子ニテ法眼
此項ヨリ種土佐流画風起ル	此此人筆意ニ擬セシモノナリ	治平等院鳳凰堂壁及扉	佛師僧圓快法隆寺舍利堂太子七歳ノ像ヲ造ル	位ニ叙セラレ
	運筆飄逸後世鳥羽画ト稱ス	摩治ノ祖ナリ		業等皆壯麗ノヲ嵌装スルコト盛
	小野僧正範俊	藤原基光天性画ヲ善ク其		建築ナリ
	廣徳	蹟世ニ傳ルモノ少シト雖相撲画		ナリ
	寛治	等アリ後世土佐家ノ祖ト稱ス		清衛陸奥中尊藤原清衡中尊
	嘉保	福原文藏土能面ノ作名		寺ヲ建テ莊嚴ヲ殿内ヲ莊嚴ス
	承長	アリ此時代亦恐ク七八		施スニ金銀地螺鈿ニ金銀地螺鈿ヲ
	康和	十年ノ後ナルベシ		以テテ
	長治	法眼頼助覺助ノ男ニテ		光堂トイフ
	嘉承	與福寺等ノ佛ヲ造ル		六條輔親其別業
	天仁	風景ヲ寫ス		庭中ニ天ノ橋立

後冷泉	後朱雀	三條	後三條	長和	寛仁	治安	萬壽	長元	長久	寛徳	永承	天喜														
善クス	阿闍梨ト云フ	師中興ノ始祖トス	造ル其子定朝ヨリ子孫	佛エヲ以テ業トナス故佛	藤原道長京極	定朝父ニ超エタル名匠ニ	寺ヲ建テ道長ニ	テ法成寺金堂ノ佛ヲ造リ	意ヲ建テ道長ニ	發明スル所多ク古	ヨリ臣下ノ宅ハ皇	宮ト異ニシテ其制	高大ナラズ道長	始テ宏壯ノ第宅	ヲ營ミシヨリ以テ	括紳ノ第宅皆	之レ倣ヒ建築風	變ス是ヨリ後依	稱シテ古代造ト	云フ	當時別業ヲ置テ頼通平等院	ヲ最行ハ頼通	鳳堂ノ格天井ヲ	裝飾スルニ螺鈿ヲ	俊細ノ伏見ノ別	以テス當時螺鈿
善クス	阿闍梨ト云フ	師中興ノ始祖トス	造ル其子定朝ヨリ子孫	佛エヲ以テ業トナス故佛	藤原道長京極	定朝父ニ超エタル名匠ニ	寺ヲ建テ道長ニ	テ法成寺金堂ノ佛ヲ造リ	意ヲ建テ道長ニ	發明スル所多ク古	ヨリ臣下ノ宅ハ皇	宮ト異ニシテ其制	高大ナラズ道長	始テ宏壯ノ第宅	ヲ營ミシヨリ以テ	括紳ノ第宅皆	之レ倣ヒ建築風	變ス是ヨリ後依	稱シテ古代造ト	云フ	當時別業ヲ置テ頼通平等院	ヲ最行ハ頼通	鳳堂ノ格天井ヲ	裝飾スルニ螺鈿ヲ	俊細ノ伏見ノ別	以テス當時螺鈿

常陸織工綾ヲ
製スレテ常陸
綾トイフ

世	繪	彫	建築	漆工	陶工	織工	
仲恭	承久 繪師尊智能画ヲ以テ法眼ニ似テ 貞應 藤原信實隆信男リ筆法變 元仁 化自在ニテ品位最高ク且寫真 長中 中世妙手ト稱セラル 安貞 繪師賢慶 寛喜 僧明恵 貞永 宅摩為行	盆ノ下前後比々技術ヲ造ルニ佛台癡 最精巧ヲ極ム 文治中宋人陳和卿來ル 佛工ニシテ又鑄物ヲヨラス 法印 湛慶尾張法印ト 一フ運慶ノ嫡男ナリ 運慶 孫康圓實朝命 ニ由リ宋帝ヨリ贈リシ藏 經ノ目錄臺ニ似テ永福寺 塔中ノ輪藏及諸具ヲ造 ル又宋人陳和卿ト共法 華堂ノ佛具ヲ彫ル是鎌 倉彫ノ權輿ナリトイフ	作ニ及ボス 後此風一般廢			加藤四郎景正支 那ニ渡リテ陶法 學ニ歸リテ張 瀨戸ニ窯ヲ設ケ陶 業ヲ再興ス是リ 諸國ノ陶工其子 傳ハ谷地ニ寄リ開	京師亂ニ由リ織 部司漸々衰テ 大舍人町工入 能ク綾ヲ織ル時 人稱シテ大舍人 綾トイフ
後堀河	承久 繪師尊智能画ヲ以テ法眼ニ似テ 貞應 藤原信實隆信男リ筆法變 元仁 化自在ニテ品位最高ク且寫真 長中 中世妙手ト稱セラル 安貞 繪師賢慶 寛喜 僧明恵 貞永 宅摩為行	盆ノ下前後比々技術ヲ造ルニ佛台癡 最精巧ヲ極ム 文治中宋人陳和卿來ル 佛工ニシテ又鑄物ヲヨラス 法印 湛慶尾張法印ト 一フ運慶ノ嫡男ナリ 運慶 孫康圓實朝命 ニ由リ宋帝ヨリ贈リシ藏 經ノ目錄臺ニ似テ永福寺 塔中ノ輪藏及諸具ヲ造 ル又宋人陳和卿ト共法 華堂ノ佛具ヲ彫ル是鎌 倉彫ノ權輿ナリトイフ	作ニ及ボス 後此風一般廢		加藤四郎景正支 那ニ渡リテ陶法 學ニ歸リテ張 瀨戸ニ窯ヲ設ケ陶 業ヲ再興ス是リ 諸國ノ陶工其子 傳ハ谷地ニ寄リ開	京師亂ニ由リ織 部司漸々衰テ 大舍人町工入 能ク綾ヲ織ル時 人稱シテ大舍人 綾トイフ	
四條	天福文曆 俊賢佛画ヲ善クス 嘉禎 僧成忍惠日坊ト號ス宅磨法 曆仁 眼ニ學ブ 延應仁治 小川僧能ク馬ヲ画ク	倉彫ノ權輿ナリトイフ					
後深草	建長 土佐邦隆經隆ノ子佛画ヲ善ク ス						
龜山	正嘉 鎌倉彫ノ康圓ヲ康譽 正元文應 宗阿弥淨阿弥相傳 弘長 淨阿弥北條家ノ命ニ 由リテ宝戒寺ノ法具ヲ						

世	繪	彫	建築	漆工	陶工	織工
後宇多	建治 弘安巨勢有行	石川龍右衛門赤鶴吉成 大夫僧日永宗忠等能面 ノ作ニ名アリ赤鶴ノ大徳 武惠等總テ強キモノ名 人ニシテ龍右衛門日永ハ 女面ヲヨクス	共ニ妙ナリ 眞行草ノ三体ニ彫刻ニ五 色ノ画具ヲ合セ塗ル之ヲ木 蘭筆トイフ是鎌倉彫ノ變 化ナリ			
伏見	正應 土佐隆相					
後伏見	正安 圓伊能画ヲ以テ法眼ニ似キ六 條道場ニ過シ大画傳ヲ画ク 乾元 土佐吉光佛画雜画ヲ兼テ妙 手ニシテ法眼上ノ繪傳ヲ西ク 鎌倉彫ハ淨阿弥ヨリ奥 德治 宅摩榮實佛画ニ巧ク始テ倭 卿康吉康永相繼ぎ康助 延慶 画古風ヲ變シ漢土筆法ヲ學テ ニ至ル此項ヨリ土彫木彫ノ 二機軸ヲ出テ頗ク龍眠顔暉ノ 二種ニ分ル					
花園	應長正和 巨勢有忠有行ノ男 高階隆兼繪所預トナル佛像 ヲ善クシ彩筆精美用意周到ナリ					
近江國日吉神社	朝廷日吉神社造	紀州根來ノ僧種 第二世藤四郎黃 塗ヲ創シシ朱 塗アリ之ヲ根來 色ノ上ニ斑文ヲ造 塗トイフ後京師リ始メテ美羅元 漆子ニシテ模倣ス 陶器ヲ出ス之ヲ 京根來トイフ 黄瀬戸トイフ				
日吉神社造營		第三世藤四郎美 濃國金花山ナリ 取リ茶禪ニ黒 斑アル茶器ヲ造ル 之ヲ金花山トイフ				

年号紀
繪
畫
彫
刻
建築
漆工
陶工
織工

辨光

僧明兆世稱シテ北殿司トイフ李龍眠ヲ宗トシ專ニ道釋ヲ畫筆墨墨畫萬天機超脱ノ妙アリ

義清金剛寺起
至其庭園規模頗宏大ナリ

僧周文如拙ノ風ヲ喜々專ラ山水ヲ画シ筆致清潤ニシテ秀韻アリ

足利義持

僧長尊明兆ヲ師トシ專ラ仙佛ヲ画ク

康猶義教ノ命由リ鎌倉彫ヲ以テ多ク室町新御殿ノ手道具ヲ作ル

直能能阿弥トイフ周文ヲ師トシ山水人物花鳥ヲ善クス
堪殿司明兆ヲ師トシテ佛像人物ヲ画ク
春日行秀行廣ノ男春日繪所

明主贈基工人我邦ニ來シ特画ノ術ヲ學ハレム

足利義隆

後花園 永享

足利義隆

預トナル
土佐光重ノ男
小栗宗丹周文ヲ學ビ行筆雄健自一家ヲナス

土佐光弘
画工土藏能ク佛像ヲ寫ス

僧殿祥世藏書記トイフ能ク山水人物ヲ寫シ殊ニ佛画ニ長ク

後藤祐乘刀飾ノ工ヲ創ム其圖案ヲ元信ニ受ケシトイフ

眞藝眞能ノ子ニシテ善ク山水ヲ寫ス頗雅韻アリ

幸阿弥道長時画シ早ニシテ多ク土佐光信下画ヲ用ニテ道清ヲ宗金宗伯長清長晏長善長法長重長義政臣野宗信

足利義隆

足利義隆

文安

寶徳

享徳

康正

長祿

年号	繪	畫	彫	刻	建築	漆工	陶工	織工
寛正						房長救正峰等相尾張瀬戸工人ニ繼ぎ時画ヲ業トシ命ジテ一種ノ茶器ヲ代々天皇御即位ノ造ラシム其器肉厚御調度ヲ作ル	義政名宴ヲ好器細ヲ施シ龜甲ノ物ヲ弄ル殊ニ漆器痕ヲ生セテ画クニ	
文正	首我蛇足周文ヲ學ヒ山水花鳥ヲ善ク筆力粗豪ナリ				義政支那風建築ヲ受テ漆工ニ命ジテ花弁ヲ以テ之ヲ折衷シ茶室東多ク之ヲ造ラシ義志野燒トイフ			
應仁	北佐北輔廣周ノ男				求堂ヲ造ル	政近侍同盟某		
文明	足利義政				相阿弥延作ヲ能ク	時画師五十嵐某		
	眞相相阿彌ト稱ス能画名アリ且書画器物鑑識ニ精ニ撰テ其弟子ニ井關並ニ出首出庭ヲ作ル當時木居ニナリ				工ノ業大ニ進歩ス	此際子ノ最モカヲ		
	僧雪舟初如拙周文ヲ師トシ文明ニ渡リテ能画ヲ開トシ遂ニ夏珪梁楷則リテ一派ヲナス筆力最豪健ニシテ清氣アリ專ラ山水ヲ画シ仙佛亦妙ナリ					珠光製法ニ巧ニシテ能ク茶器ヲ製ス		
	狩野正信祐勢トイフ義政ニ仕ヘテ近侍トシテ画法周文宗丹等ヲ學ビ之ニ派ヲナス狩野氏祖リ					又泰阿弥清阿弥		
	海田相保土佐風ノ画ヲ能クス					兩子一ノ種清淡輕妙ノ風致ヲ出ス		
						羽田五郎茶器ノ		

後土御門

足利義

年号	繪	畫	彫	刻	建築	漆工	陶工	織工
長亨	僧宗淵雪舟ヲ師トシ妙至ル					名エシテ茶良法		
延徳	土佐光信廣ク古画ヲ辨テ技巧ヲ用					京師ノ漆工門人支		
	意周到彩筆纖麗ナリ後世時画ハ多ク其画法ニ効テ土佐三筆ト稱セラル					那製ニ効テ始テ		
明應						堆朱堆墨ヲ製ス		
						沈金波志加彫ヲ		
						テ存清等亦此		
						項ヨリ出ツ		
後柏原文龜	僧秋月雪舟ヲ師トシ專ラ山水ヲ画ク筆致清秀ニシテ墨痕淋漓ナリ					伊勢松阪久五郎		
永正						大輔祥瑞明往		
						テ磁器ヲ製スル		
						法ヲ學ビ其技妙		
						上總介親信三光坊弟子		

足利義隆

足利義隆

後柏原文龜

永正

年記	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
	土岐洞文天性画ヲ能ク最鷹ニ妙フ得タリ	後藤宗乘法眼ニ叙セリ最剛子ノ作ニ巧ナリ	北條氏綱鎌倉ハ備官ニ營ム		唐津ニ於テ高麗ノ茶碗ヲ模製シテ後山ニシテ高麗ノ麗トイフ	
	前等陸波月ノ號ニ秋月ノ師トシテ山水人物ヲ画シ		信長ニ條城造		朝鮮人李敬輿化シ高麗左衛門稱高麗ニ於テ陶器ヲ製ス古式トイフ	
元龜	僧宮村始ニ舟ヲ蘇レ後宋元諸家ノ風ヲ學ビ遂ニ新造出ニ妙ニ至ル	後藤藤乘真雕琢ノ風甚勇	信長安土城ヲ築	當時茶事盛流リ	古田織部陶ヲシテ一種ノ茶器ヲ造ラレトシテ織部トイフ	
天正	善クモ利運元當ニ雪舟筆法ヲ索テ等類之ニ應ニ因テ改テ雲谷ヲ氏トシテ孫世々其傳ヲ受ク	官曲遊左衛門岡部又右衛門等安土城ノ柱ノ昇降ノ能ク刻ム	其制足利氏ニ似ハズ	行々茶人武野紹備前ノ陶工三日	備前ノ陶工三日	
	狩野永徳教ヲ祖父元信ニ受テ新ニ奇極ク出テ歌樂大阪ノ城金燈ニ画シ		擬テ天主閣ヲ建	彌十利休古田織部等各新様茶器ヲ發明シ漆工ヲ新トシテ	月六兵衛茶器	
	芝琳院		金ノコトバノ之レヲ	器ヲ發明シ漆工ヲ新トシテ	織田信長又那	
			制是ヨリ一變ヲ	之レヲ紹興様ノ瓦工ノ觀ヲ習ヒ	明様ノ瓦ヲ製セ	
			利休様織部様	イフ當時茶器ニハ		

足利義満
上利義昭

年記	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
	土佐光吉光成ニ男頗織巧ナリ	埋忠重吉鐸及目貫等ノ彫ニテ當代ニ名アリ		ヲ製スルニ巧ナリ漆工六分ニ及盛阿弥陶工支那ノ法ニ似テ或ハ自發明シテ所アリテ各地ニ窯ヲ開ケモ多シ	美濃焼出ツ	京師織工明人傳ニ交テ西陣織業ヲ興シ
	小野通女詩歌彈箏ヲ能ク兼テ圖画ニ巧ナリ	角ノ坊團松並ニ假面作ニ名アリ	秀吉智仁親手ハ為ニ柱離宮ニ營ム	數年間干弋相續キ文物弛廢シ當時製メテ漆器多ク精巧ニシテ起シ城樓ヲ大阪ヲ築キ又筆宅ヲ京師ニ營ミ聚樂城トイフ其宏壯ナルコト昔日通長ノ台アリ又鳥城トイフ	亦吉千利休意ヲ開キ金網紋子錦匠ニ隨ヒ長裕ニ縮緬等ヲ織ル	
文祿	長谷川等伯狩野ヲ出テ一派ナリ自稱シテ雪舟第五世トイフ	是關吉滿假面ノ作ニ名アリ秀吉ヨリ天下ノ名ヲ賜ハル大野出目ノ祖ナリ		數年間干弋相續キ文物弛廢シ當時製メテ漆器多ク精巧ニシテ起シ城樓ヲ大阪ヲ築キ又筆宅ヲ京師ニ營ミ聚樂城トイフ	亦吉千利休意ヲ開キ金網紋子錦匠ニ隨ヒ長裕ニ縮緬等ヲ織ル	
慶長	曾我直庵山水人物ヲ能ク最鷹ニ妙フ得タリ			數年間干弋相續キ文物弛廢シ當時製メテ漆器多ク精巧ニシテ起シ城樓ヲ大阪ヲ築キ又筆宅ヲ京師ニ營ミ聚樂城トイフ	亦吉千利休意ヲ開キ金網紋子錦匠ニ隨ヒ長裕ニ縮緬等ヲ織ル	
	狩野孝信永徳ノ二男能ク家學ヲ守ル	後藤光乘品致願高家彫ニテ當代ニ名アリ		數年間干弋相續キ文物弛廢シ當時製メテ漆器多ク精巧ニシテ起シ城樓ヲ大阪ヲ築キ又筆宅ヲ京師ニ營ミ聚樂城トイフ	亦吉千利休意ヲ開キ金網紋子錦匠ニ隨ヒ長裕ニ縮緬等ヲ織ル	
		河内大塚家重世ニ井関河内トイヒ假面ノ妙ニシテ古今無類ト稱ス		數年間干弋相續キ文物弛廢シ當時製メテ漆器多ク精巧ニシテ起シ城樓ヲ大阪ヲ築キ又筆宅ヲ京師ニ營ミ聚樂城トイフ	亦吉千利休意ヲ開キ金網紋子錦匠ニ隨ヒ長裕ニ縮緬等ヲ織ル	
		古源助茶滿假面ノ作ニ名アリ古源助越前出目ニ寄屋ノ建築是		數年間干弋相續キ文物弛廢シ當時製メテ漆器多ク精巧ニシテ起シ城樓ヲ大阪ヲ築キ又筆宅ヲ京師ニ營ミ聚樂城トイフ	亦吉千利休意ヲ開キ金網紋子錦匠ニ隨ヒ長裕ニ縮緬等ヲ織ル	

徳川家康
三代
徳川秀忠

後水尾 三代 明正

年号	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
後水尾	狩野山業ヲ永徳ニ受持野 氏ヲ冒シ秀吉ニ任ラ山水豐潤ニ シテ人物頗々人趣アリ	伏見久左甚五郎木彫子 名手ナリ其子宗以孫勝政 次	小堀遠州庵作建 築意匠ニ富 桂宮離宮及大 徳寺孤蓬庵南 江ノ三宮磁器 初メ水戸侯頼房江ノ小石川邸中ニ庭園造リ徳全寺 佐兵衛意匠ヲ用テ頼房庭園ニ慶長年間堆朱平十郎トイフモアリ平十郎堆朱ニ巧ナリ因テ此名ヲ得テ以テ將軍家康任子孫世々 元和	徳寺孤蓬庵南 江ノ三宮磁器 初メ水戸侯頼房江ノ小石川邸中ニ庭園造リ徳全寺 佐兵衛意匠ヲ用テ頼房庭園ニ慶長年間堆朱平十郎トイフモアリ平十郎堆朱ニ巧ナリ因テ此名ヲ得テ以テ將軍家康任子孫世々 元和	徳寺孤蓬庵南 江ノ三宮磁器 初メ水戸侯頼房江ノ小石川邸中ニ庭園造リ徳全寺 佐兵衛意匠ヲ用テ頼房庭園ニ慶長年間堆朱平十郎トイフモアリ平十郎堆朱ニ巧ナリ因テ此名ヲ得テ以テ將軍家康任子孫世々 元和	徳寺孤蓬庵南 江ノ三宮磁器 初メ水戸侯頼房江ノ小石川邸中ニ庭園造リ徳全寺 佐兵衛意匠ヲ用テ頼房庭園ニ慶長年間堆朱平十郎トイフモアリ平十郎堆朱ニ巧ナリ因テ此名ヲ得テ以テ將軍家康任子孫世々 元和
寛永	水阿弥光悦土佐ノ風學ニ派 逆格ニシテ頗風韻アリ兼テ臨池 譽高ク又特繪及製陶巧ナリ 狩野山雪山樂亭ト自格ヲ出 岩佐又兵衛土佐ヨリ出テ一種當時 ノ風俗ヲ寫メ時人ノ一ヲ浮世繪 ト稱ス	横谷宗與幕府ノ彫物師 トナル横谷彫祖ナリ 奈良宗貞亦召サレ御影 物師トナル奈良彫祖ナリ	家光武人及農商 ノ家宅ノ制一定 本阿弥光悦最時 人ノ命ニ朝齋御	家光武人及農商 ノ家宅ノ制一定 本阿弥光悦最時 人ノ命ニ朝齋御	家光武人及農商 ノ家宅ノ制一定 本阿弥光悦最時 人ノ命ニ朝齋御	家光武人及農商 ノ家宅ノ制一定 本阿弥光悦最時 人ノ命ニ朝齋御
明正						

後西堂 後光明 後水尾

年号	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
後西堂	萬治					
明曆	狩野宗信探幽齋ト號和漢 沙彌ノ家法ヲ變テ別振舞ヲ出 シ一種輕快ノ風ヲ吹ク後世狩野風ヲ 學ボモ皆此ノ粉本ヲ模シ他師 ヲ求メテ規矩漸ク小ニ復古亭	生三妙ヲ得タリ	營々亭閣頗闊	丹山青海對山		
後光明	正保					
後水尾	慶安					
徳川家	應					
後水尾	永應					
後水尾	萬治					

靈元

年号	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
見ルノ龍分ニ至ル	狩野常信自適齋ト號ス探幽ノ弟シテ水墨ヲ用井氣韵卓絶リ中年ニシテ大ス	大和眞藏河内ノ弟子ニシテ假面作ニ名アリ	尾州侯光貞戸城田高田村前京ヲ營ミ戸山園ト稱ス後益修造ヲ加シ林泉ノ富宏ナル當時無比ト稱ス	古満休伯召セテ藤府時繪師ト在真製ス所優雅雅ニシテ緻密ナリ子孫業ヲ襲ク	北谷焼肥前有由西陣職業大進ノ法ヲ取リ又画工ニ全頼唐織紗絞守景ノ画ヲ用井鑑ニ録加女綾サヲ益精巧トス	兵衛等ノ名工出
狩野派雲画才アリ遂ニ一家ヲ興ス之レヲ駿河堂狩野トイフ					京音羽屋九郎兵衛清水焼ヲ創シ磁器ニシテ描画巧リ後道八亀京ノ漆工紺屋新平与兵衛等名工出	
狩野安信孝信ニ男ニシテ吉画ノ鑑別ニ精シ宗家ノ嗣ト尤之レヲ中橋狩野トイフ					京師ノ織工支那製ニ倣ヒ純ヲ織ル又此際編子ヲ	
住吉廣澄具慶ト稱ス又具慶ニ似テ筆致亦美ナリ	出目洞白出目元休共假面作ニ名アリ					
狩野永納山雪ノ男画ヲ能ク又藻ヲ好ミ鑑識精シ木朝画史著ス						
又平大津ニ住ミ鹿末ニ彩色也ヲ用畫佛画又戲画ヲ大津車祖トス						

徳川綱吉

貞享

東山

年号	繪畫	彫刻	建築	漆工	陶工	織工
久彌守景探幽ノ師ト筆力雄傑リ茶道ヲ嗜ミ画風大變ス	村上和竹繪象眼師ニシテ象眼ニ於テ一流ヲ開ク	將軍綱吉上野山内中堂ヲ建造ス善ク殊波文ヲ描ク妙ヲ得タリ故ニ青海ノ名ヲ得	安巨久藏休伯ノ子ニシテ良工ナリ	三世ヨリ十世ニ至ル	京師ノ織工亦邦製ニ倣ヒ琥珀織金等ヲ織ル出ス	製スル巧太進歩ス
狩野常信教朴又古川叟ト號ス名手ニシテ探幽又一傑ナリ	繪ヲ求メ始メテ毛雕ヲ創ス	水戸侯光圀小石川邸ノ庭園ヲ修片泉牙木片善ヲ名ケテ後樂園ト稱ス	破笠細工トイフ	勇山中山宗哲時畫師ニシテ最も畫ニ妙ヲ得子孫宗哲名ヲ繼ギ金師ヲ業トス	當時時西枝大進妍麗精巧ノ板大稱シテ常憲院時代時繪トイフ	京ノ画工文禪色添ノ下画ヲ創意ス之レヲ文禪添トイフ
鶴澤探山探幽ニ學ビ筆力雄健ニシテ自一家ヲナス	後藤通乘三作ノ一ニシテ花鳥真ニ逼リ自然ノ活氣アリ					
菱川師宣土佐ノ風ヲ慕ヒ派出シ浮世繪ヲ画キ專ラ當時ノ風俗ヲ寫ス	奈良利壽奈良良彫中興ノ妙手ニシテ精巧優美ナリ					
緒方光琳初ニ土佐狩野ノ學ニ後光悅宗達ノ風ヲ慕ヒ格ヲ創ス	近江呂滿假面工ニシテ出目家ヨリ出テ別ニ兎玉ヲ稱ス					
最意匠ニ富ミ風致絶妙ナリ	元利榮滿亦出目家ヨリ出テ別ニ一家ヲ立ツ言元					
木阿弥光南北悅ノ孫茶道ヲ好兼テ画ヲ能クシ祖翁ノ風ヲ画ク	將軍家宣吹瓦直新造ノ山漆					
英一蝶野ヲ出テ派ヲ起ス画風俳氣アリ多ク風俗ヲ寫シ戲画ニ妙ナリ	修造ニ文濟御殿ニ錫青貝守景					
	利トイフ					

徳川家宣
中御門

元禄

寶永

正徳
七代
徳川家継

正徳 子紀		繪 畫	彫 刻	建 築	漆 工	陶 工	織 工	
鳥居清信初、美川ノ學ビ後 画風ヲ一家ヲシテ、専ラ劇場 ノ看板ノ画之ヲ鳥居風トイフ 村野周信常信ノ男画格老蒼 ナリ		山口雪漢、雪舟ニ法リ一格ヲナス 西川祐信、狩野ト伍テ折衷シ一 種ノ風ヲ多ク版本ヲ画ク 橋守國、狩野ノ學ニ刻版ノ画ニ 妙ヲ得テ、多ク画手ノ本類ヲ出シ後 進ヲ益ス	細野政守、毛彫象鼻ノ創 意ス 奈良政、隨豪爽ノ風ヲ 清兵衛世ニ清兵衛彫ト 稱シ、根付又ハ他ノ木彫ニ 巧ナリ 雛屋立、甫根付彫ヲヨクス	柳川直政、宗暉ノ弟子ト ナリ、獅子ヲ彫ルニ妙ヲ得 ナリ	フ建築ス	シテ、時画ヲス、拙法 大ニ風致アリ、意匠 亦世ニ冠絶ス 塩見小兵衛、時画 ノ良ニシテ、最モ精 出ニ妙ヲ得タリ 永田友治、時画名 手ニシテ、光琳ノ風ヲ 慕フ 望月半山、破笠風 ヲ慕フニ世破笠ト 稱ス 京都ノ堆朱屋治郎 左衛門、江戸ノ堆朱 養清、長青ノ藤 七及勤七、並ニ當時堆 朱名手ト稱セラル	京都ノ天宮院僧 荏油ヲ加ヘ朱ヲ和 テ、器物ヲ塗ルニシテ 陰光塗トイフ	伊勢桑名ノ人波沼 五左衛門、交趾和蘭ノ織工、野桐生 ノ袖法、彩画ヲ能ク、三米リテ織業ヲ開 後、幕府ノ命、雷リク テ、江戸ニ来リテ、陶市松形流行ス 器ヲ造リ、萬古ノ 印ヲ歎クニ、世ニ其器 ヲ古萬古ト稱ス

櫻町
元文

寛保		延享	寛延	寛政	天明	文政	天保
渡邊好興、初メ狩野ヲ學ビ、後光琳 風ヲ慕ヒ、自一家ヲナス		高田敬甫、初メ狩野ヲ學ビ、後古 欄ヲ師トシテ、人物ヲ善クス	松田清海、清人ノ蕭尺木ノ画譜ヲ蔵 シテ、ニ法リ、文人ノ画ヲナス、我國ニ於 テ、南画ヲ起テ、首唱ナリ 望月玉蟬、初メ土佐、狩野ヲ學ビ、 後大雅ト交リ、画風ヲ變ヒ、テ南 画ヲ創ス	宮川長春、狩野風ヲ學ビ、一種ノ 洋世繪ヲ画ク、彩色最モ富麗 ナリ 奥村政信、志道軒ト稱シ、風俗 ヲ寫ス	鑓屋屋清七、欄間彫名手 ナリ	當時若狹、漆業 盛リ、若狹塗ノ畫ヲ 支那存異ノ風ヲ 模シ、彩漆ヲ塗テ、金 銀箔ヲ裝セシメ、 ナリ 鈴木庄左衛門、正 義、京都ノ畫師 ニシテ、良工ト稱ス	伊勢桑名ノ人波沼 五左衛門、交趾和蘭ノ織工、野桐生 ノ袖法、彩画ヲ能ク、三米リテ織業ヲ開 後、幕府ノ命、雷リク テ、江戸ニ来リテ、陶市松形流行ス 器ヲ造リ、萬古ノ 印ヲ歎クニ、世ニ其器 ヲ古萬古ト稱ス

徳川家
徳川家

桃
園

徳川家治
後櫻町

年世
後櫻町 狩野ノ學ニ後深權張
平山相カレテ其格ヲ變テ
曾我前白蛇足軒ト號ス蛇足堂
舟ノ風ヲ慕ヒ山水人物奇峭豪法眼周山画ヲ能ク彩色
故ヨリ氣韻ニ乏シト雖筆力最根付ク雕ニ巧ナリ
勇健ナリ
明和
明和中。安永。石長崎ニ遊ヒ清人宗紫岩画法ヲ傳テ遂ニ本邦冒花方走歐頌工級ナリ。石田幽門法橋ヲセラル。東洋奧陸人初狩野ヲ
學ビ後應舉月漢ニ交リテ画格ヲ變テ筆墨蒼渾ニシテ名時著ル
安永中。月岡雪鼎世粧及春画ニ巧ナリ。釣水南嶺東洋ヲ師トシ山水人物花鳥共ニ妙ナリ
孫葉ヲ襲ク
出羽秋田ノ織工浮
線織ヲ製ス
越後十日町織工
透綾ヲ織出ス
江戸ニテ親和流
流行ス

後桃園

安永
與謝蕪村元明ノ名家ヲ慕ヒ又
俳画ノ風ヲ帶ヒ一家ノ妙ヲ出ス
劍雲泉筆墨ヲ精微ナル大雅堂ニ
起テ亦南画ノ名家ナリ
圓山應舉初ト石田幽門ニ學ビ後
ノ名人ニシテ象牙ノ素彫ヲヨ
諸家ニ出入ス又古蹟ヲ摹最クス
力ニ寫生ニ尽シ花卉細毛曲サニ
其味ヲ究メ設色清潤意匠微妙
ニシテ遂ニ二代ノ大家トナル海内其
門ニ入ルモノ多ク聞画風爲ニ變テ
奈良乘意名工ニシテ機軸
將軍家治武州
紅葉山ニ東照宮
紅葉山ニ東照宮
將軍家治武州
紅葉山ニ東照宮
紅葉山ニ東照宮
紅葉山ニ東照宮

孝格

大明
伊藤若冲元明ノ古蹟ヲ慕ヒ又此
琳ノ筆意ヲ用テ種々奇趣ヲ出ス
北川歌麿浮世繪師ニシテ專當
世ノ風俗ヲ寫ス
出シ肉合雕ヲ創意ス
將軍家齊吹土苑
ヲ修理シ又瀆御殿
ヲ修理ス
松平樂翁江戶築
地別業ヲ營ミ浴
ニテ精巧緻密ヲ
以テ名アリ
井上白齋原羊遊
齋並ニ當時時画
ノ妙手ナリ
出雲ノ國主松平
不昧陶工善四郎
ニ命ジテ高麗ノ
諸器ヲ模造セシ
堆朱漆流行ス

徳川家治

見政
騎井源瑞應舉ニ學ヒ美人湖毛
花卉ヲ能ク設色妍麗ニシテ名聲
時ニ重シ
皆川淇園應舉ニ學ヒ頗緻密ナ
リ
長澤菴雪應舉門ノ巨擘ニシテ
多ク新意ヲ出ス
兼子シ名エナリ
恩園トイフ
以テ名アリ
井上白齋原羊遊
齋並ニ當時時画
ノ妙手ナリ
出雲ノ國主松平
不昧陶工善四郎
ニ命ジテ高麗ノ
諸器ヲ模造セシ
堆朱漆流行ス

享和
僧月傳伊勢山田ノ寂照寺ニ住ス
人物山水ヲ善クシ名ヲ時配ス請
求スモノ幾ト虚日ナシ
松村月浪吳春ノ師ニ初メ無村
學ビ後應舉ヲ慕ヒ三家ノ折衷
一派ヲナス白條風長ヲ筆致
輕淡ニシテ眞ニ寫シテ趣アリ
佐伯岸駒宋人名蹟ヲ慕ヒ又
南蘋ノ風ヲ學ビ一派生西開ク
妙ニ至ル
奈良安親新奇ヲ出シ
奇巧ヲ出シ根付殊ニ妙ナ
眠江伊勢ノ人木彫ニ種々
奇巧ヲ出シ根付殊ニ妙ナ

文化
木村景文兄月溪學ヒ花鳥ニ
奇巧ヲ出シ根付殊ニ妙ナ
尾名古屋ノ天
丸谷陶画工八郎
始テ赤軸
伊豫漆流行ス

世 一 巧 墨色 美麗 兒過	繪 畫 倉橋豐國 陽齋 彌邦 俗美人 ヲ寫 近世 浮世 繪名手 ト稱 セラル	彫 刻 平田春就 御影物師 兼子 七寶 巧ナリ	建 築 古 技 長 テ 古 技 長 テ	工 尾張瀬戸 陶工 加藤民吉 肥前 有田 往 三 往 三 往 三 往 三 往 三	織 工 上野桐生 織京 都 法 ヲ傳 糸 錦 ヲ織 リ 出 ス
-------------------------------	---	---	--	---	---

寛政中。諸國月雪鼎。雪舟ヲ慕ヒ山水人物ヲ善クス	村田牧長 繪物師 巧ナリ	石工群鶴 碑銘 ヲ刻 スニ 妙 ヲ得 タリ	將軍家 齊京都 乃 司 代 命 シテ 修 學院 ヲ修 築ス	陶器 時畫 ヲ善 ク ト テ 發 明 ス ニ 妙 ヲ 得 タリ	豊助 鐵 ト イフ	京 陶 工 十 世 善	五郎 永樂 燒 金	欄 樣 ヲ 始 ム	古田傳 右衛門 九郎 都 法 ヲ傳 糸	谷燒 ヲ再興 專 錦 ヲ織 リ 出 ス	三浦乾也 破笠 畫 ヲ用 フ	倣 ヒ 又 乾 山 法
-------------------------	--------------------	---	---	--	--------------------	----------------------------	--------------------	-----------------------	---------------------------------------	--	----------------------------	----------------------------

渡邊 山本 筆山 谷文晁 筆 後藤 一乘 近代 名手 ト稱 セラル	後藤 一乘 近代 名手 ト稱 セラル	川野春明 江戸ノ 金工 ニシテ	覺 齋 長 寛 江 ノ 模 造 ス 之 レ ヲ 善 ク ト テ 稱 セラル	模 造 ス 之 レ ヲ 善 ク ト テ 稱 セラル	紀伊國 主 京 陶	工永樂 ヲ招 キ交趾	紀州燒 是 ヲ 起 ス	伊勢 名 手 人 有 ヲ ヨ リ ト 織 又 ク 以 テ 花 文 ヲ ナス 之 ト	節樂燒 又 和蘭 陶 工 ト イフ	風 陶 器 ヲ 造 リ 萬 古 印 ヲ 吹 ス 今 ノ	萬古燒 是 ヲ 起 ス	淡路燒 ヲ起 ス
---	-----------------------------------	--------------------------	--	--	--------------------	------------------	-------------------------	--	-------------------------------------	--	-------------------------	----------------

安政	弘化	天保
----	----	----

年世
号紀

繪
畫

彫
刻

蹴
鞠

漆
工

陶
工

工
具

十代
繪家茂

萬延
文久

元治
慶應

今上

十代
繪家喜

明治

堀川文齋、山田學士、山水人物、翎
毛花卉、共三妙、筆姿、瀟灑、名
一時、聲、

狩野勝川、晴川房家、學、守ル
由、相傳、對、筆、力、勇、健、近、世、南、画、
名、手、ナリ、

佐竹、永海、文、苑、學、ヲ
出、山、芳、園、景、文、學、ニ、設、色、精、美、
出、藍、ノ、妙、アリ、

中田、有、石、小、田、澤、倦、ニ、學、シ、又、元、明
諸、家、ヲ、參、シ、遂、ニ、家、ヲ、ナス、
精、池、谷、齋、持、野、土、佐、諸、家、ノ、風、ヲ
取、リ、一、派、ヲ、出、ス、最、古、實、ニ、精、多、
ノ、歴、史、上、ノ、事、蹟、ヲ、画、シ、

全 明治二十四年八月二十日印刷
年 今月廿九日出版

版權
所有

著作者

發行者

印刷者

發兌

大賣捌

福地 復

原 亮 三

日 置 九 郎

金 港 堂 本 店

金 港 堂 支 店

金 港 堂 支 店

仙臺 國分 九丁目

日本橋區本町三丁目十七番地

金港堂
發行
印

製本
山

